

洞爺湖有珠山ジオパーク・ストーリーカード『大地と食のものがたり』

洞爺湖有珠山地域では、独自の気候風土で育まれた、さまざまな産品が収穫されています。大地とのつながりを知り地域活動に生かすことを目的としたジオパークの視点から、これらの产品を見ると、产品にまつわる「この土地ならではの物語」が見つかります。洞爺湖有珠山ジオパークでは、そのような物語を集めて、次の4枚のカードを作りました。

大地と食のものがたり①

ホタテは語る

噴火湾とホタテの

“自然のゆりかご”な話

豊浦町は“噴火湾ホタテ養殖”発祥の地。河川から豊富なミネラルを含んだ水が噴火湾に注ぎ、エサとなるプランクトンの発生を促します。そのエサを得ながら、波がおだやかな噴火湾で、ホタテは元気に大きく成長します。



大地と食のものがたり③

とうきびは語る

火山灰台地ととうきびの

“恩返し”な話

とうきびは、水はけが良く、広々とした台地のおかげで、太陽の光をいっぱい受けられます。昼夜の寒暖差で糖が貯えられ、甘味の強いとうきびに。収穫後の茎や葉は緑肥（りょくひ）として土にすきこみ、土づくりに一役買っています。



大地と食のものがたり②

伊達野菜は語る

火山と伊達野菜の

“陽当たり良好”な話

北海道の中でも気候が温暖な伊達市では、200種類以上の野菜が採れます。有珠山、紋別岳（もんべつだけ）、稀府岳（まれっぷだけ）など、連なる山々は、みんな火山。山裾から海まで緩やかに続く日当たりのよい耕作地は、もともと火山が作り出した地形です。

大地と食のものがたり④

りんごは語る

盆地とりんごの

“箱入り娘”な話

壯瞥町（そうべつちょう）はくだもの名産地で、特にリンゴの町として有名です。雨や霧が少なく、風も穏やかな盆地の気候は、果樹栽培に最適。周囲の山や丘に守られながら、りんごは、赤く、甘くなります。



ジオパークの絵本「11万年前のうえの1日」

火山の噴火や、まわりの地下の世界がどのようにになっているのか、私たちはあまり知りません。その中身を覗き、地上世界との関係をひも解くと、さまざまな物語が見えてきます。洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会では、このような『大地の物語』をまとめた絵本『11万年のうえの1日』を作成しています。

ストーリーカード『大地と食のものがたり』は、この本と合せて読むと、もっと地域のこと、ジオパークのことを、知ることができます。

